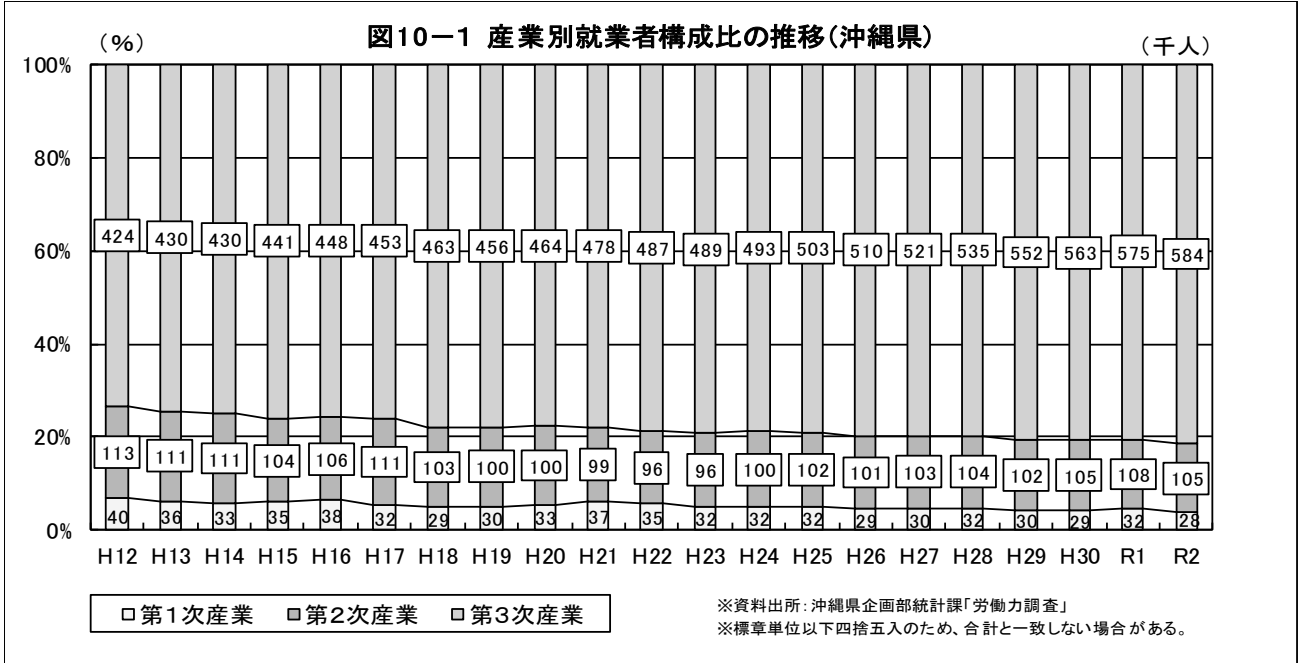


(5) 産業別就業者数

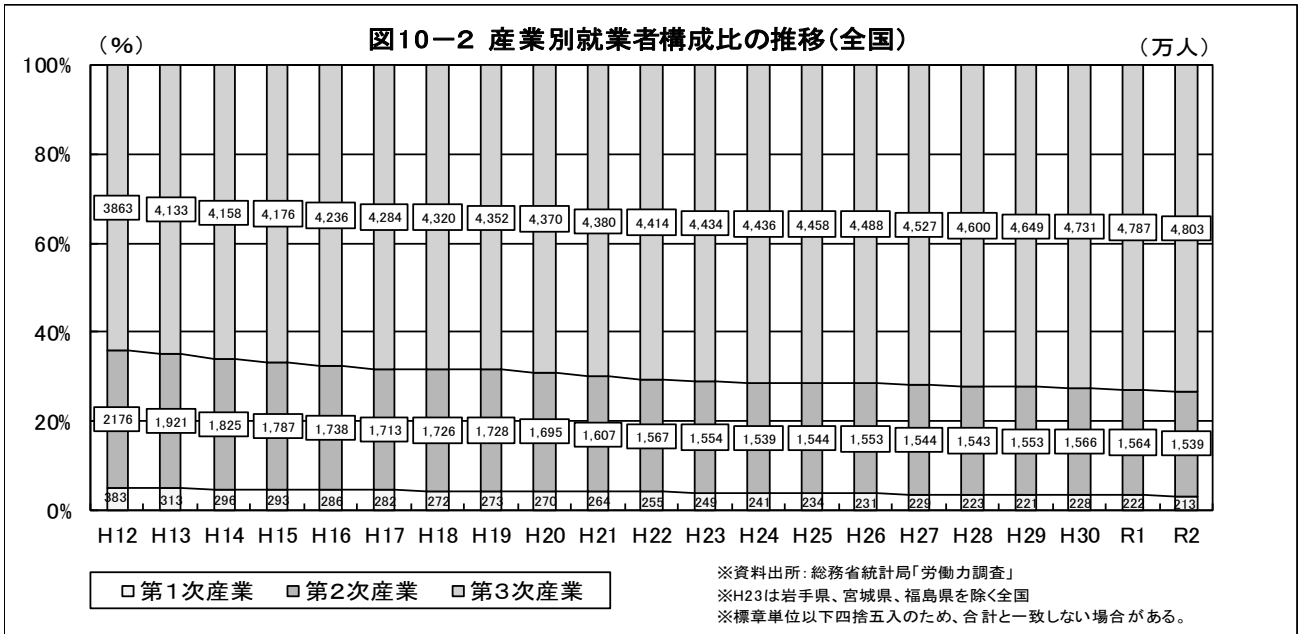
①産業別就業者構成比の推移

本県の産業別就業者構成比の推移をみると、第1次産業、製造業を含む第2次産業は減少傾向で推移しており、第3次産業は増加傾向で推移している。

令和2年は、第1次産業が3.9%（28千人）、第2次産業が14.4%（105千人）、第3次産業が80.3%（584千人）となっている。



一方、全国の産業別就業者構成比の推移をみると、第1次産業が3.2%（213万人）、第2次産業が23.1%（1,539万人）、第3次産業が71.9%（4,803万人）となっている。



本県の就業者に占める第3次産業の割合は、全国と比べ令和2年で8.4ポイント上回っている。

一方、第2次産業の割合は8.7ポイント下回っており、本県においては一般的に雇用の吸収力があるといわれる製造業を含む第2次産業の割合が低く、サービス業を含む第3次産業の割合が高い状況となっている。

②主な産業別就業者数の推移

就業者数を産業別で見ると、令和2年は前年と比べ、「情報通信業、運輸業、郵便業」「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業、複合サービス業」で増加した。

